

奈良県

果樹のIPM実践指標モデル

次の管理項目や管理ポイントを例にして、地域の病害虫や雑草の防除状況に応じたモデルをつくりIPMに取り組みましょう。

管理項目	管理ポイント	取り組みの ○×チェック	
		去年は？	今年は？
せん定	樹冠内部の風通し・日当たりを良くするとともに、薬液散布における付着の死角をなくす。		
	せん定くずは、園外に出す。		
病害伝染源の除去	病害の発生した部位（枝、葉、果実、花弁など）は、除去して園外に出す。		
収穫、貯蔵時の取り扱い	収穫、調整時及び保管庫内では、果実を丁寧かつ適正に扱う。		
除草	（越冬）害虫を減らすため、あぜ、農道、休耕田の除草を行う。		
	除草剤の使用量を減らすため、刈払機や乗用モアなどで除草する。		
	敷きわら、敷きくさ、マルチフィルムなどを用いる。		
病害虫発生予察情報の確認	病害虫防除所が発表する発生予察情報を確認する。		
要防除水準	要防除水準を利用する。防除が必要と判断された場合には、確実に防除を行う。		

管理項目	管理ポイント	取り組みの ○×チェック	
		去年は？	今年は？
生育状況・病害虫の発生状況の把握	定期的に園内を見回り、病害虫の発生状況を観察する。		
	最適防除時期を逃さないように、萌芽・開花などの状況を把握する。		
光利用技術	黄色灯を利用して、ヤガ類、カメムシ類などの飛来を抑制する。		
農薬安全使用	農薬ラベルに書かれている使用基準を守る。		
	風向きや強さに注意し、周辺に農薬を飛散させないようにする。		
	状況により、周辺農作物にも適用のある農薬を選ぶ。		
	例年の病害虫・雑草の発生状況や、病害虫発生予察情報を考慮して薬剤を選ぶ。		
	防除体系に生物農薬を組み入れる。		
作業日誌	作業内容や病害虫・雑草の発生状況のほか、農薬を使用した場合は、その名称、希釈倍数や使用量などを記録する。		
	作業日誌は、概ね3年間保管し、次作の参考にする。		
研修会等への参加	県や農協などが開催する栽培講習会、IPMや農薬安全使用に関する講習会などに、年に1回は参加する。		